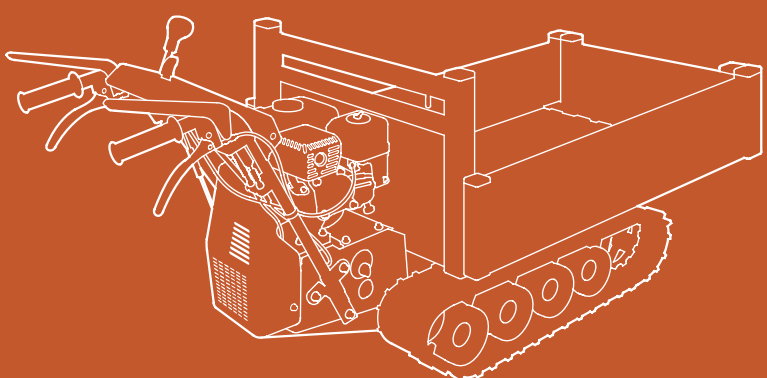
HONDA
汎 用 製 品

運搬機

HP500H

取扱説明書



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

● 一般公道では使用できません。
● 夜間作業はできません。
（作業灯の装備がされていません）

取扱説明書について

この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

e-SPEC は、Honda が「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、（社）日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた運搬機を安全に正しく操作をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上、特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう 4
安全ラベル 8

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 10
エンジンスイッチ 12
燃料コックレバー 12
チョークレバー 13
エンジン回転調節レバー 13
始動グリップ 13
走行クラッチレバー 14
変速レバー 14
サイドクラッチレバー 15
ダンプロック解除レバー 15

作業前に点検しましょう 16
作業前の点検 16
燃料の点検 17
クローラの点検 19
荷台延長パイプのロックボルトの点検 20
エンジンオイルの点検 21
エアクリーナ（空気清浄器）の点検 23
HST（変速機）オイルの点検 24

エンジンのかけかた 25

エンジンのとめかた 29

運転操作のしかた 31
運転 31
旋回のしかた 33
荷台（キャリア）の使いかた 34
積載のしかた 37
傾斜地での使いかた 38
ダンプロック解除レバーの使いかた 39

定期点検を行いましょう 40
　定期点検整備項目 40

点検・整備のしかた 41
　エンジンオイルの交換 41
　点火プラグの点検・調整・交換 43
　エアクリーナの清掃 44
　クローラの調整 45
　走行クラッチケーブルの調整 47
　ブレーキケーブルの調整 49
　ブレーキシューの点検 50
　サイドクラッチケーブルの調整 51
　ダンプロックケーブルの調整 52
　ミッションオイルの点検 53
　各部の給油について 54

トラック（車）への積み降ろしのしかた 55

長期間使用しないときの手入れ 57

故障のときは 60

主要諸元 61

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法をご理解のうえで操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 過労や病気、薬物の影響で運転操作に支障があるときは本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 頭髪、衣服、手ぬぐいなどが巻き込まれないように、作業に適した服装をしてください。また滑り止めのついた作業に適した靴をはいてください。思わぬ事故を起こすことがあります。
- 日常点検・整備を必ず行い、本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態で操作すると、大けがをすることがあります。点検作業は、通行の妨害にならない平坦で安全な場所で行ってください。防護装置が正しく取付けられていることを確認してください。
  点検・整備のために取外された部品は正しく取付けられ、確実に締め付けられていることを確認してください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
  燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、換気のよい場所で補給してください。また燃料を補給するときや燃料の保管場所では、たばこを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 本機の操作は 2 本のハンドルバーをしっかり握り、本機の後方に立って操作をしてください。荷台の上に乗ったままの操作は絶対にしないでください。転落などにより、けがをするおそれがあります。

警告

- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。また本機の改造は絶対にしないでください。適正な機能を発揮しなくなり、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- 荷台に人を乗せて乗り物代わりの使用は絶対にしないでください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸し出す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

●荷物の積載

- 過積載は絶対にしないでください。積載の量、方法を必ず守って使用してください。「積載のしかた」（37頁参照）
- 荷台に荷物を積載する場合は荷崩れしないように、しっかりとロープで固定してください。
- 荷台からはみ出すような荷物は積載しないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したり、運転操作に支障をきたします。
- 高く荷物を積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなり転倒するおそれがあります。

●作業中

- 作業中は周囲の安全に十分注意してください。
- 本機と接触してけがをすることがないように、作業範囲内に人やペットを近寄らせないでください。特に子供には注意が必要です。人やペットが近づいて来たときは、エンジンを止めて作業を中断してください。事故を起こすおそれがあります。
- 運転中は、クローラ部に手や足を近づけないでください。

警告

- 後進で使用するときは滑ったり、つまずいたりする場合がありますので足元、荷崩れ、後方視界などに十分注意してください。
- 視界が悪いときは障害物にぶつかる場合がありますので本機を使用しないでください。
- 作業場への出入り、溝や畦の横断、砂地での使用、軟弱地の通過、傾斜地での発進、停止、旋回などは転倒するおそれがありますので注意して走行してください。
- 傾斜地で駐車しないでください。駐車をするときは平坦な場所でエンジンを止めて、変速レバーを＂低速＂にし、走行クラッチレバーを＂停車＂にしてください。
- 急傾斜地での旋回および変速は、転倒や転落するおそれがありますので避けてください。
- 軟弱な道の走行は路肩が崩れ、転倒、転落するおそれがありますので避けてください。
- 本機の転倒を避けるため、平地または15度以下の傾斜地で使用してください。「積載のしかた」(37頁参照)
- 作業中に異常を感じたら、平坦な場所でエンジンを停止させてください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを＂停止＂にして点火プラグキャップをプラグから取外し、変速レバーを＂低速＂にして、走行クラッチレバーを＂停車＂にしてから点検してください。
- 運転中はエンジンやマフラ（消音器）などは非常に熱くなっています。エンジン停止後もしばらくの間は熱いままになっています。やけどのおそれがありますので、エンジンやマフラなどに触れないように注意してください。
- クローラの上面が水に浸かるような深い水田などでは使用しないでください。

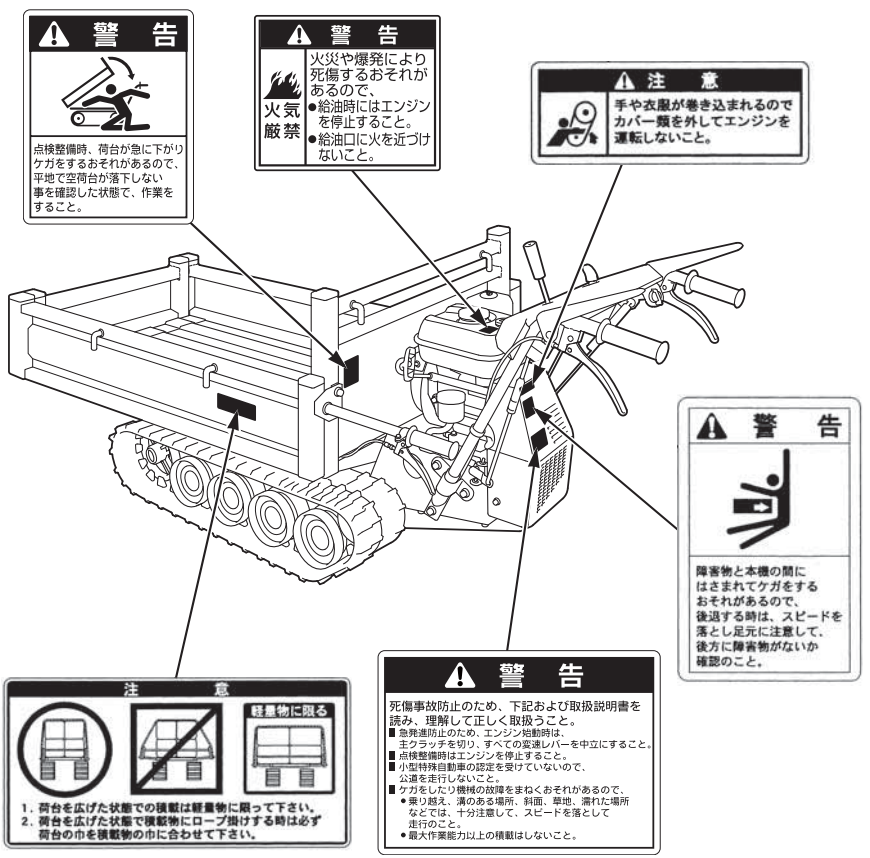
警告

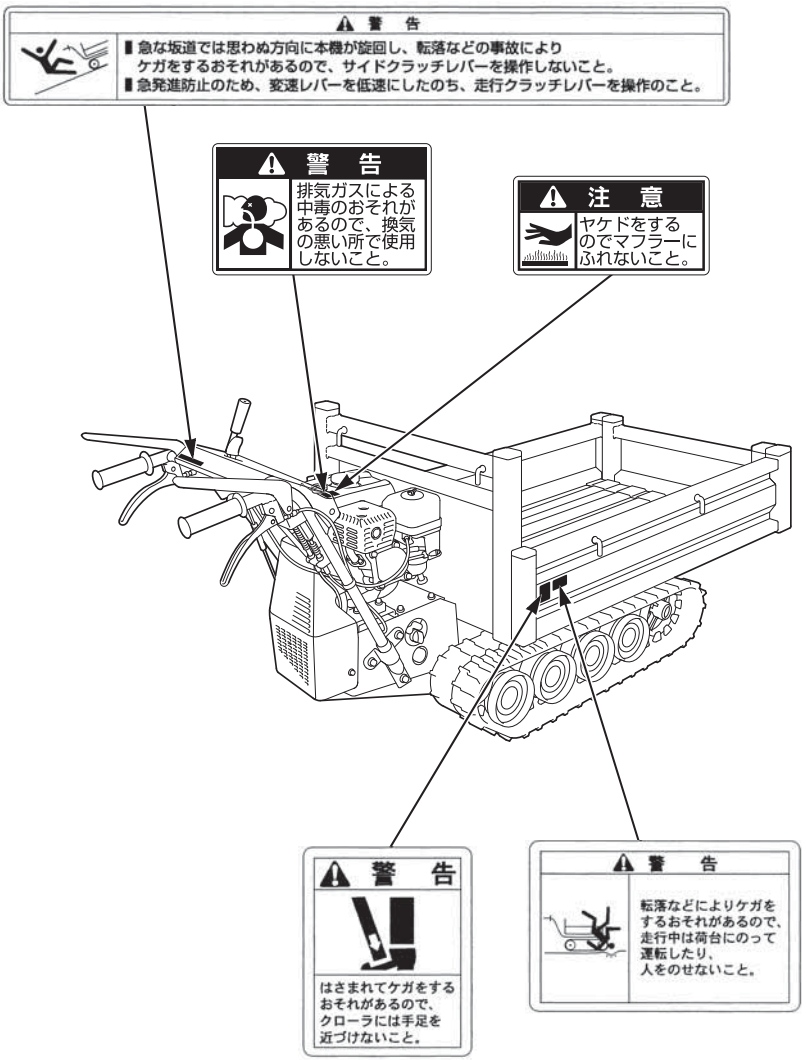
●作業が終わったら

- 次の作業に備えて本機の点検・整備を実施してください。
- やけどの原因とならないように、エンジンを停止させ、エンジンやマフラなどが冷えてから各部の清掃をしてください。
- 本機を格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディカバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料とキャブレータの燃料を抜き取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- トラック（車）への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下した場合にけがをするおそれがあります。

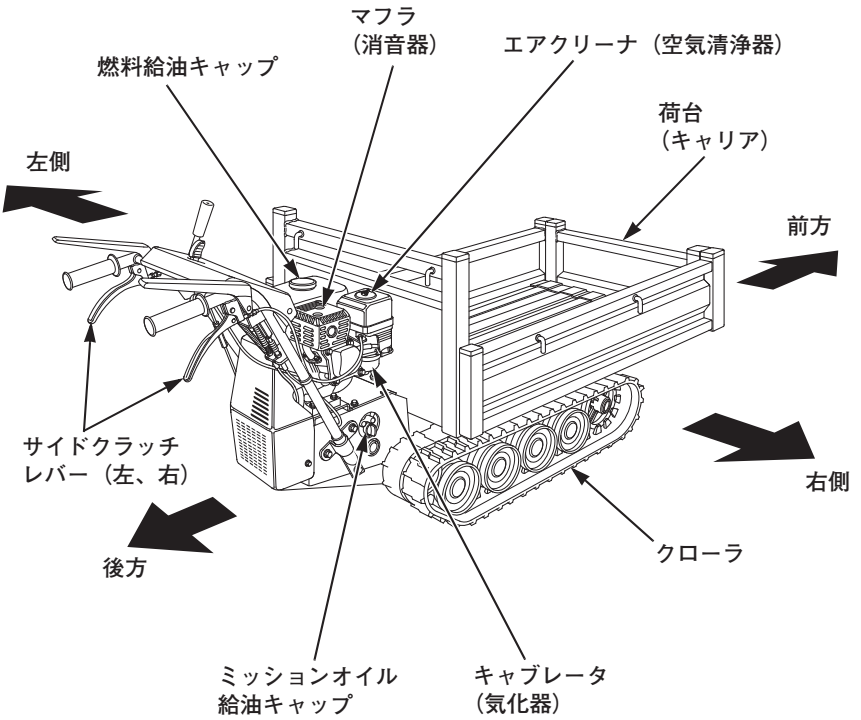
●安全ラベル

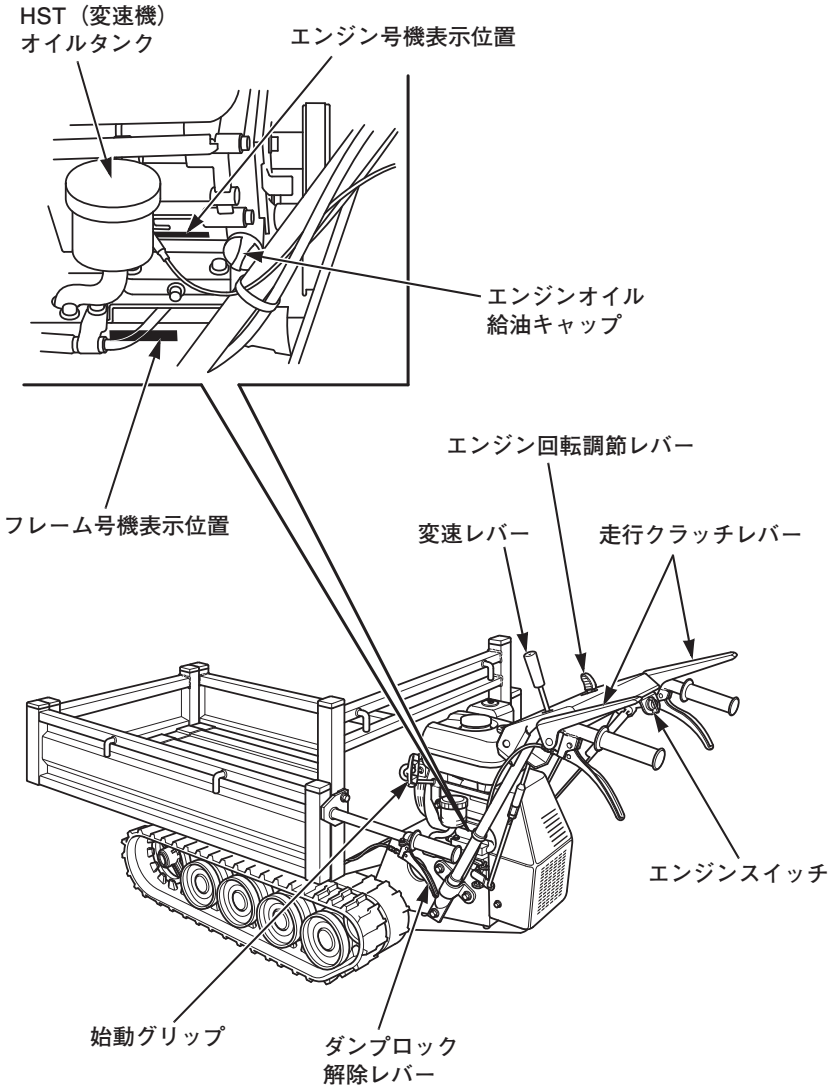
本機を安全にご使用いただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失で読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。
また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものを貼ってください。
安全ラベルはお買いあげいただいた販売店にご注文してください。




警 告
■急な坂道では思わぬ方向に本機が旋回し、転落などの事故により
ケガをするおそれがあるので、サイドクラッチレバーを操作しないこと。
■急発進防止のため、変速レバーを低速にしたのち、走行クラッチレバーを操作のこと。
警 告
排気ガスによる
中毒のおそれが
あるので、換気
の悪い所で使用
しないこと。
注 意
ヤケドをする
のでマフラーに
ふれないこと。
警 告
はさまれてケガをする
おそれがあるので、
クローラには手足を
近づけないこと。
警 告
転落などによりケガを
するおそれがあるので、
走行中は荷台にのって
運転したり、
人をのせないこと。

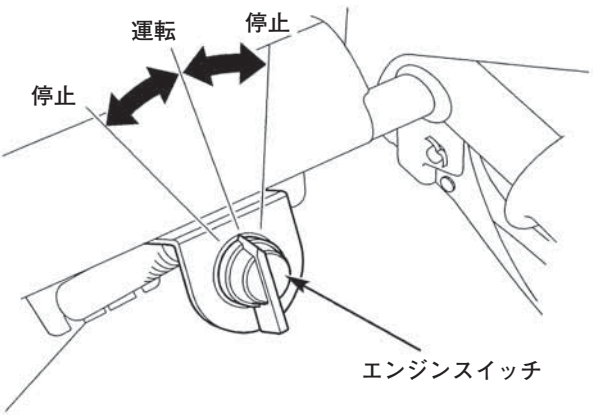
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




HST（変速機）
オイルタンク
エンジン号機表示位置
エンジンオイル
給油キャップ
フレーム号機表示位置
エンジン回転調節レバー
変速レバー
走行クラッチレバー
エンジンスイッチ
始動グリップ
ダンプロック
解除レバー

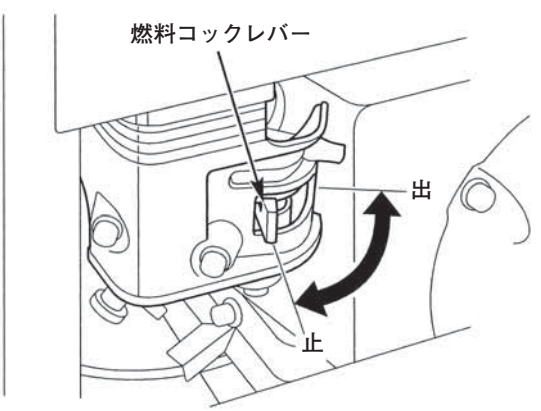
エンジンスイッチ

エンジンの運転、停止をするときに操作します。



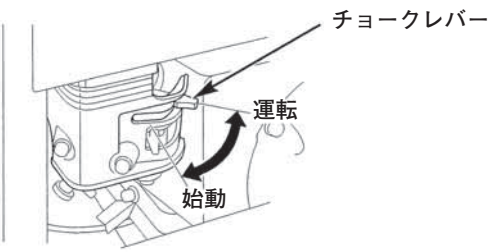
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレータ（気化器）までの燃料通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に**"止""出"**の位置に合わせます。



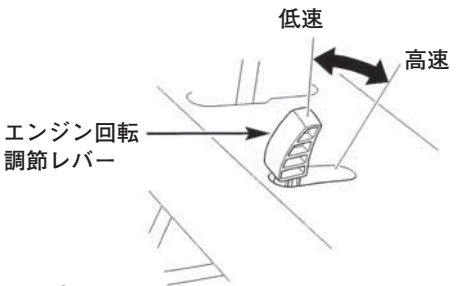
チョークレバー

エンジンが冷えているときに操作します。



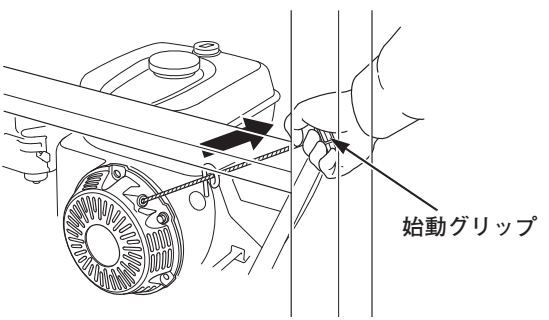
エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調整するレバーです。エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



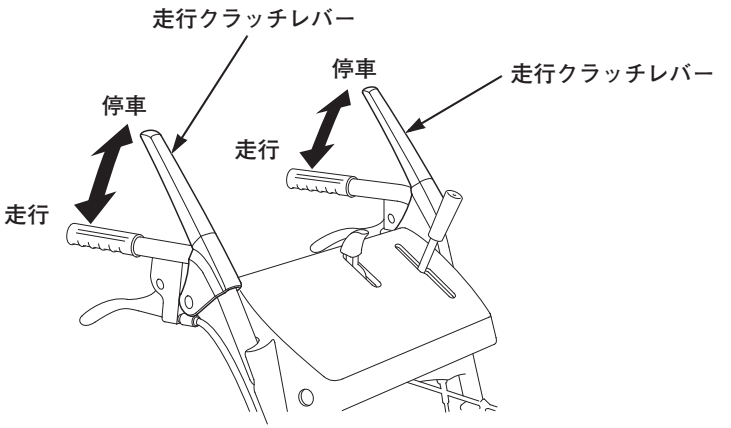
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



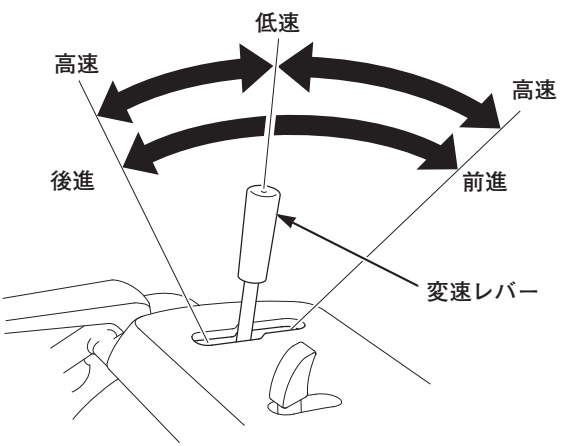
走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを握ると走行し、放すとクラッチが切れブレーキが作動して止まります。



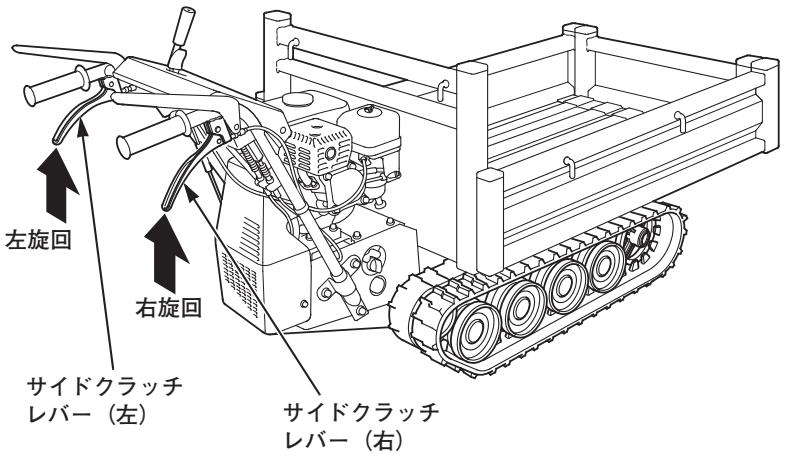
変速レバー

本機を前進、後進するために操作します。
作業内容に応じた適切な走行速度に調整（無段変速）してください。



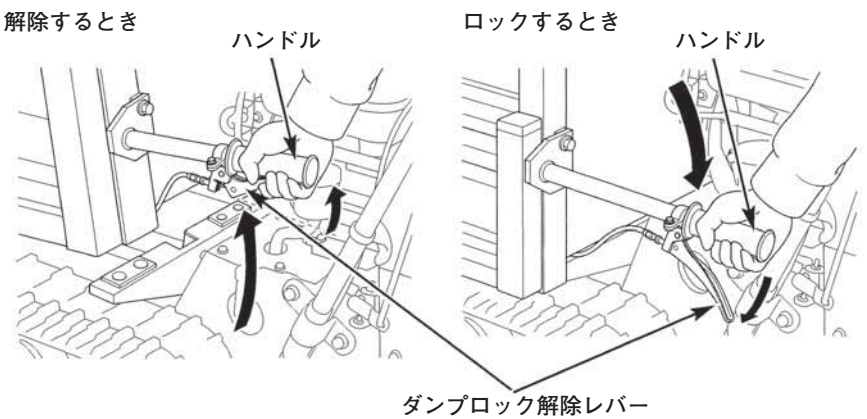
サイドクラッチレバー

方向を変えるときに使います。レバーを握ると握った方向に曲がります。



ダンプロック解除レバー

荷台（キャリア）のロックを解除するときに操作します。
解除するとき …… レバーを握りハンドルを持ち上げます。
ロックするとき …… ハンドルのみ持ってロックするまで下げます



⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にしエンジンを止めて行ってください。
不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- ●本機のまわり‥‥‥‥‥‥ 燃料の量（18頁参照）、オイルの量（21頁参照）は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ等の付着はないですか。
- ●レバー類の作動‥‥‥‥‥ レバーの遊び量（47～52頁参照）は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- ●各部の締付け‥‥‥‥‥‥ 荷台延長パイプのロックボルトにゆるみ、がたはないですか。（20頁参照）
  その他のボルト、ナットにゆるみはないですか。
- ●配線、ケーブル類‥‥‥‥ 被覆のやぶれ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- ●エンジンの始動、停止‥‥ エンジンを始動し、異音はないですか。（始動手順は25～28頁参照）
  エンジンスイッチで確実に停止しますか。（停止手順は29～30頁参照）
- ●その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

燃料の点検

⚠警告

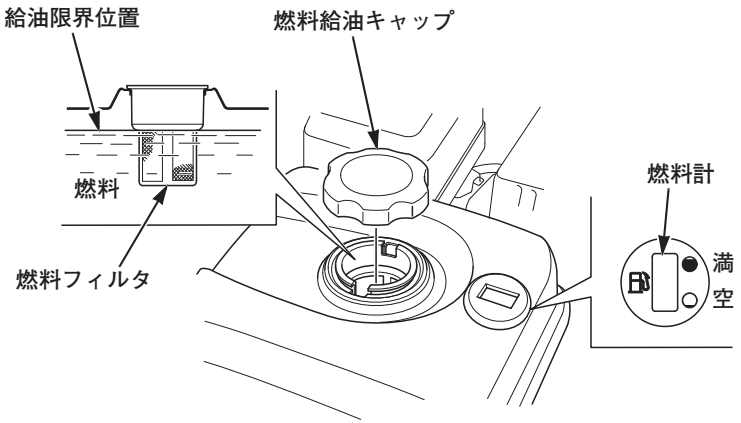
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して大けがや死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気のよい場所で補給してください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり、引火して火災を引き起こすおそれがあります。

点検

燃料計を確認してください。

燃料計の針が"**空**"に近づいたら、早めにエンジンを止め、燃料を補給してください。



補給

燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないよう補給してください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

補給後、キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

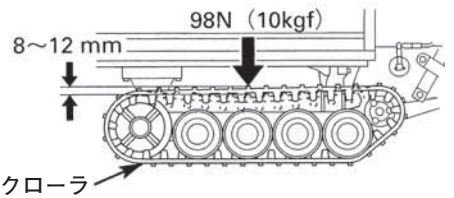
- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**
- **ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。**

クローラの点検

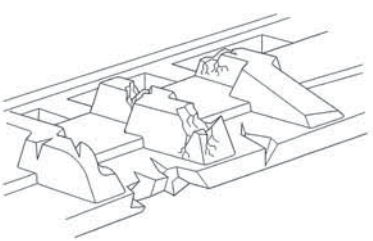
クローラに損傷はないか、ゆるんでいないことを確認してください。クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

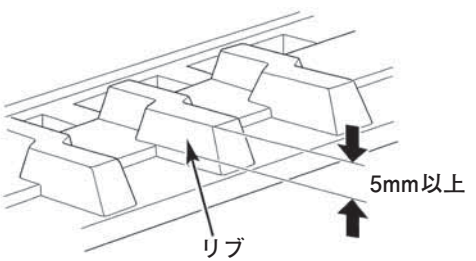
点検のしかた

1. クローラの中央部を強く｛約98N（10kgf)｝押したとき、たるみが下記寸法になっていることを確認してください。（調整方法は45頁参照）
   たるみ量：8～12mm



2. クローラに著しい亀裂、損傷、摩耗がないことを確認してください。
3. クローラのリブの高さを確認してください。
   リブの高さ：5mm以上





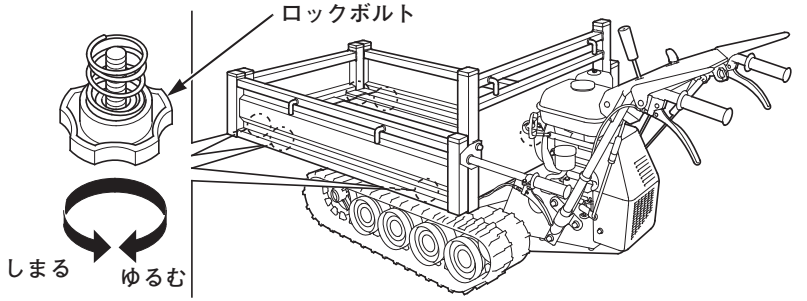
4. クローラに著しい亀裂、損傷、磨耗があるときは、お買いあげ販売店にお申しつけください。

⚠警告

走行中ににクローラが外れたり切れたりした場合、荷崩れや転倒などの事故につながります。
走行不能になると同時にブレーキが効かなくなり重大事故になる場合があります。

荷台延長パイプのロックボルトの点検

荷台延長パイプのロックボルトがゆるんでいないことを確認してください。
もしゆるんでいる場合は、手で確実に増し締めしてください。



⚠注意

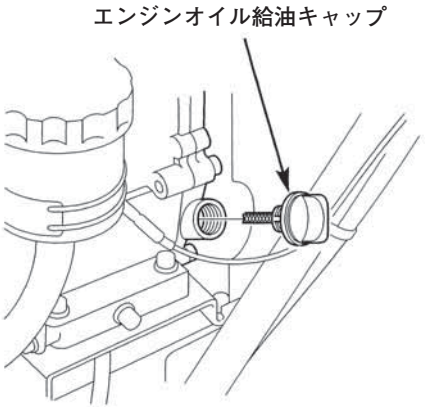
ロックボルトの締付けがゆるいと運搬中に荷台サイドプレートや荷台フロントプレートが外れ、荷崩れやけがをするおそれがあります。

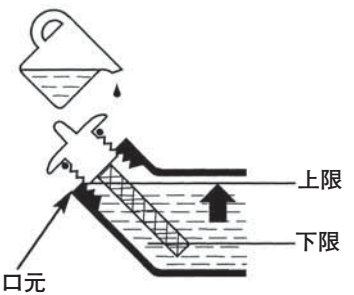
●荷崩れや転倒事故を防ぐため、日常点検を実施してください。

エンジンオイルの点検

点検

本機を水平な場所に止めオイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずにキャップを差込み、給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。油面が下限に近いときは、上限までオイルを補給してください。オイルの汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は41～42頁参照）



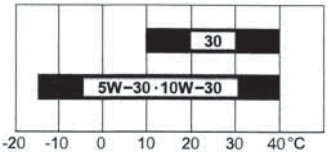


補給

オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給してください。

《推奨オイル》： Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30エンジンオイルをご使用ください。

エンジンオイルは外気温に応じた粘度の
ものを表にもとづきお使いください。



外気温

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいと
オイルが漏れることがあります。

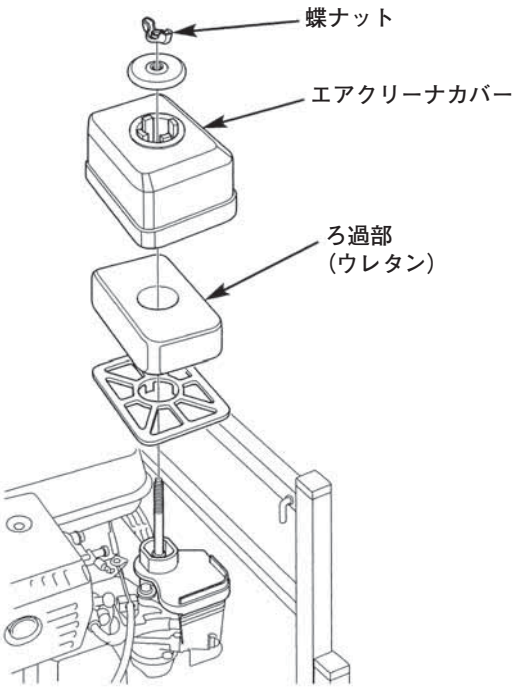
エアクリーナ（空気清浄器）の点検

点検

1. 蝶ナットを外し、エアクリーナカバーを取外します。
2. ろ過部（ウレタン）の汚れを確認します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。（44頁参照）

取扱いのポイント

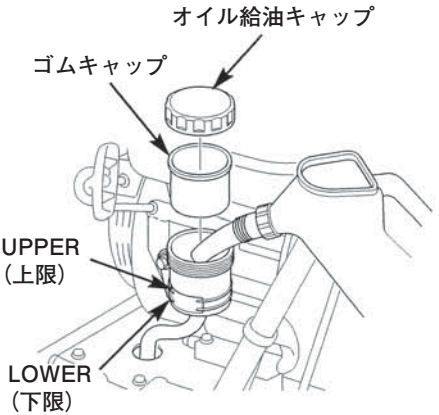
- **エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナカバーやろ過部（ウレタン）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**



HST（変速機）オイルの点検

点検

HSTオイルの点検は、本機が冷えているときに行ってください。
HSTオイルタンクのUPPER（上限）LOWER（下限）の間にオイルがあるか点検します。LOWER（下限）を下まわっているときは、補給してください。



補給

オイル給油キャップとゴムキャップを外し、新しいオイルをUPPER（上限）まで補給します。

《推奨オイル》： Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30エンジンオイルをご使用ください。

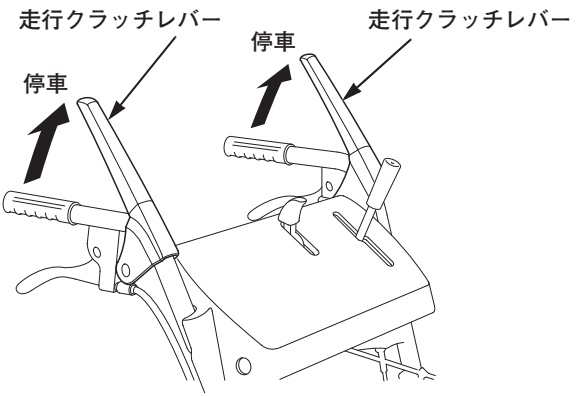
取扱いのポイント

- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **補給時、オイルタンクの中にゴミなどの異物が入らないように十分注意してください。異物が混入すると変速機が故障する原因となります。**
- **HSTオイルが著しく減少する場合は、作業を中止してお買いあげ販売店にお申しつけください。**

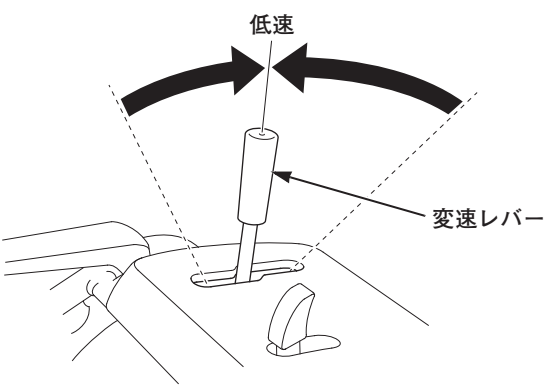
⚠警告

- **屋内や換気の悪い所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**
- **エンジンを始動するときは、必ず周囲の人や物の安全を確認してください。走行クラッチレバーが " 停車 " の位置で、変速レバーが " 低速 " の位置になっていることを確認してください。本機が不意に動きだし、けがをすることがあります。**

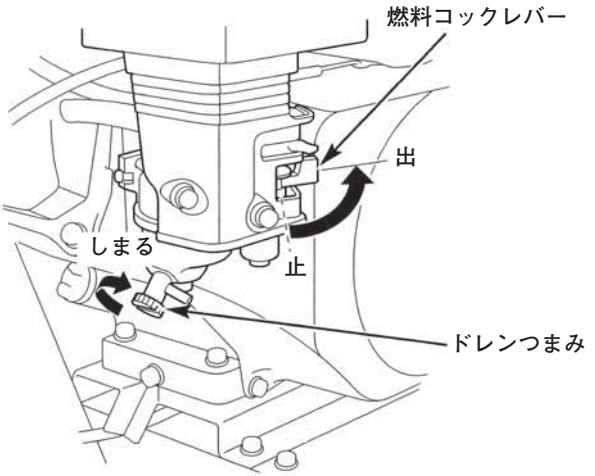
1. 走行クラッチレバーを **" 停車 "** の位置にします。



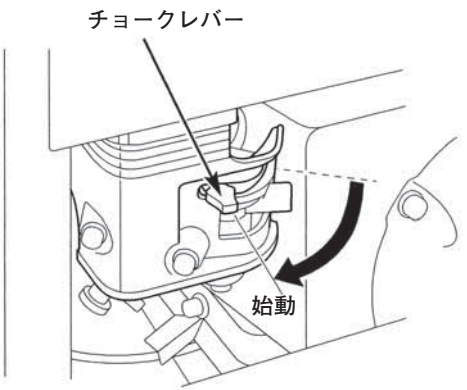
2. 変速レバーを **" 低速 "** の位置にします。



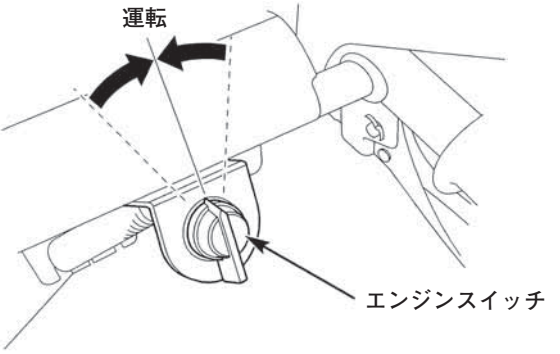
3. ドレンつまみが確実にしまっているか確認し、燃料コックレバーを **" 出 "** の位置に合わせます。



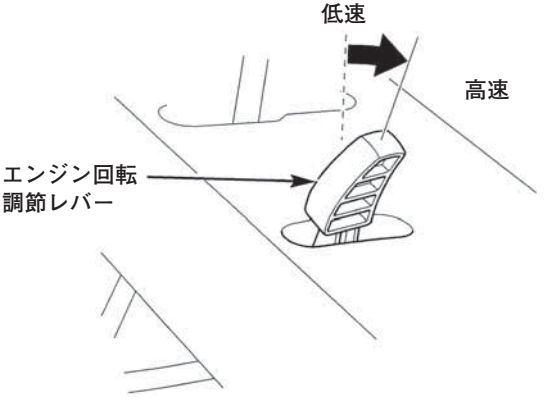
4. チョークレバーを **" 始動 "** の位置まで引いてください。
エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときにはチョークレバーは手前に引かず戻しておきます。



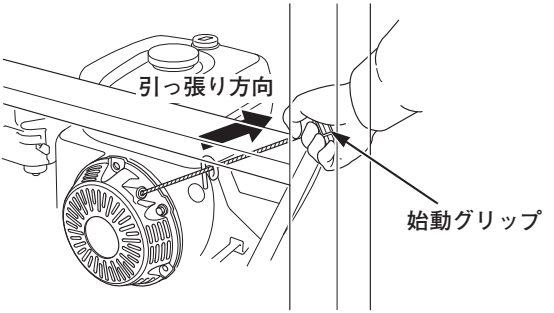
5. エンジンスイッチを " **運転** " の位置に合わせてください。



6. エンジン回転調節レバーを " **低速** " と " **高速** " の中間の位置に合わせます。



7. 始動グリップを静かに引き重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。

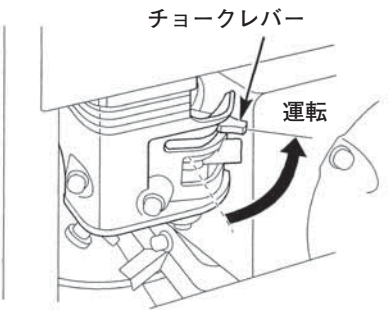


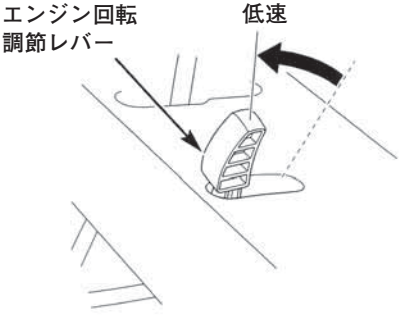
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップやまわりの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

8. 2～3分暖機運転を行います。
チョークレバーを使用して始動したときには、エンジンの回転が安定するのを確認しながらチョークレバーを元の位置に戻します。
エンジンの回転が安定したら、エンジン回転調節レバーを**"低速"**の位置にしてください。

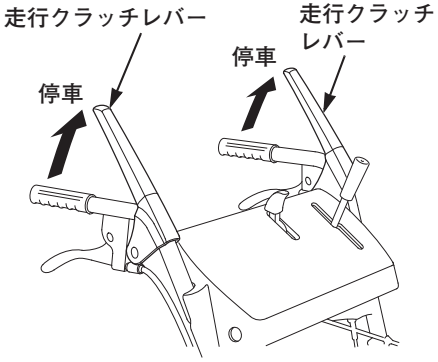
●暖機運転を行うことにより､エンジンの各部にオイルを行きわたらせ寿命をのばします。

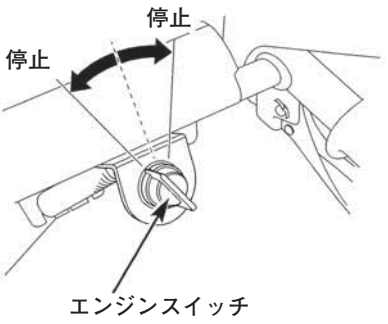




緊急停止の場合

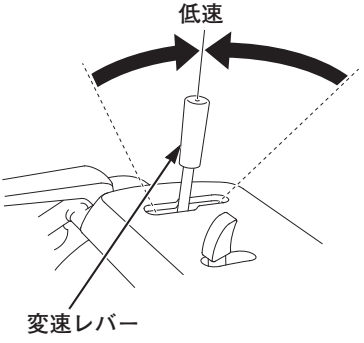
走行クラッチレバーから手を放すと、本機が停止します。
エンジンスイッチを"**停止**"の位置にしてエンジンを停止します。

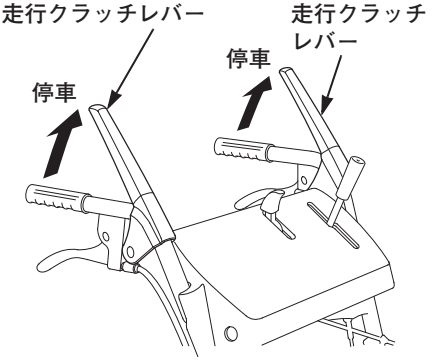




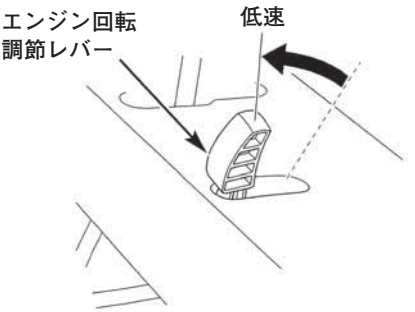
通常停止の場合

1. 変速レバーを"**低速**"の位置にし、走行クラッチレバーから手を放し、"**停車**"の位置にします。

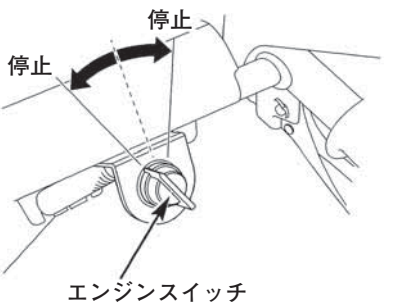




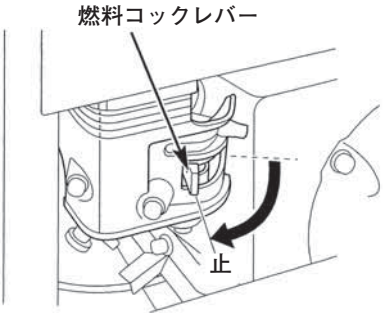
2. エンジン回転調節レバーを **" 低速 "** の位置に合わせます。



3. エンジンスイッチを **" 停止 "** の位置にします。



4. 燃料コックレバーを **" 止 "** の位置に合わせます。



運搬作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり運搬作業にとりかかってください。

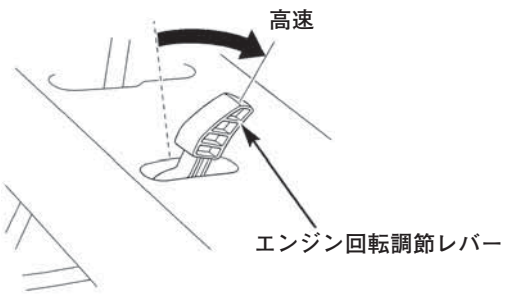
運転

「エンジンのかけかた」（25頁参照）に従ってエンジンを始動します。

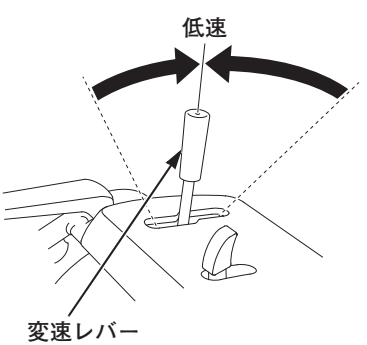
⚠注意

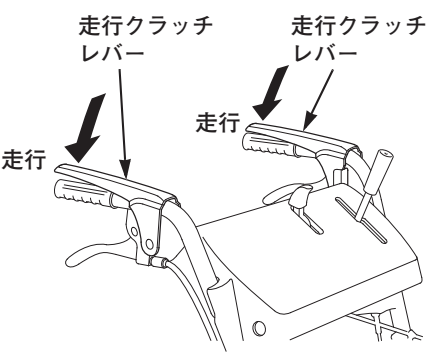
急発進による事故などを防ぐために、周囲の安全に十分注意してレバー操作を行ってください。

1. エンジン回転調節レバーを **" 高速 "** の位置に合わせます。



2. 変速レバーが **" 低速 "** の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握り **" 走行 "** の位置にします。

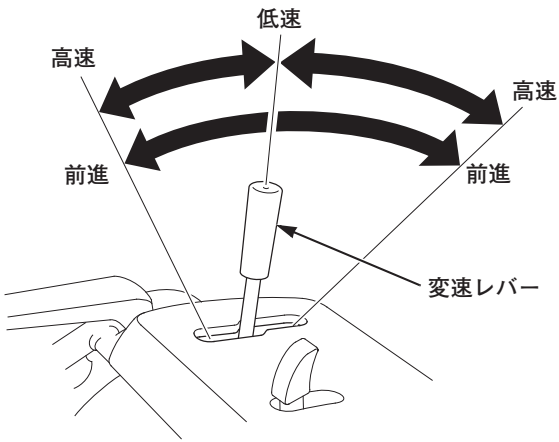




3. 変速レバーを**"低速"**の位置から動かすと走行を始めます。
作業内容に合わせて変速レバーを調整し、車速を設定してください。
走行中に変速レバーを操作し、車速を変速することができます。

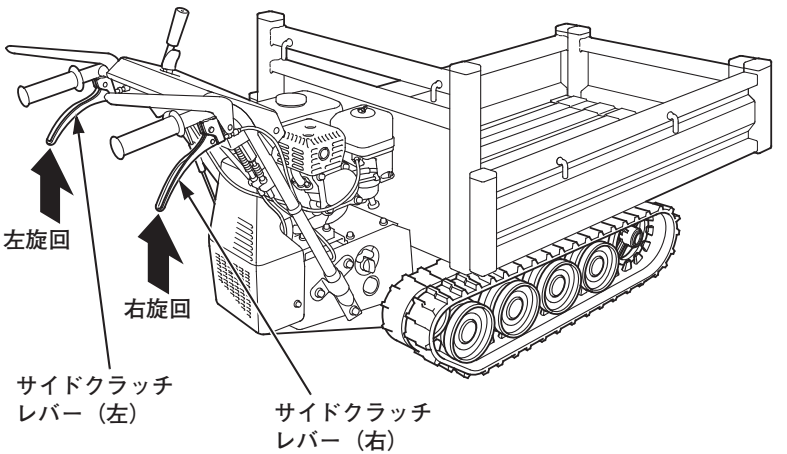
⚠警告

- **急な坂道を下るときはエンジン回転調節レバーおよび変速レバーを"低速"の位置にして走行してください。**
- **傾斜地でエンジンが停止したときは、すみやかに走行クラッチレバーから手を放し"停車"位置にしてブレーキをかけてください。**
  走行クラッチレバーが"走行"の位置の状態では、ブレーキがかからず本機が動きだす場合があります。
- **後進するときは後方の安全を十分確認してください。**



旋回のしかた

旋回しようとする方向のサイドクラッチレバーを握ると旋回します。サイドクラッチレバーを操作する場合は、レバーを確実に握ってください。



⚠警告

旋回するときは荷物が安定していることを確認してください。
急傾斜地では旋回しないでください。転倒や転落の原因になります。

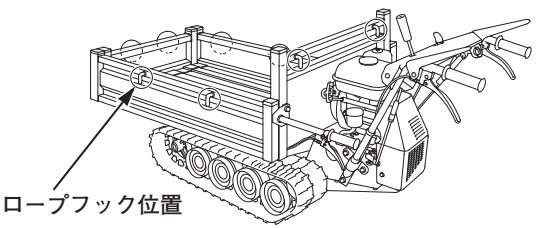
荷台（キャリア）の使いかた

37頁の重量制限を守ってください。

⚠警告

荷物を積載するときは、必ず定められた荷台寸法内で積載重量、正しい積載のしかた、傾斜角度を守ってください。エンジンやフレームに悪影響をあたえるばかりでなく、荷くずれなどを起こす原因になります。

荷物を積載するときは、必ず荷くずれしないようにしっかりとロープでロープフックを使い固定してください。



⚠警告

転倒や転落事故防止のために次の指示に従ってください。

- **本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。**
- **重心が高くならないように、重い荷物が下になるような積み方をしてください。**
- **荷台を広げて使用する場合は、必ず軽量物で平地に限って使用してください。**
- **積み荷が荷台からはみ出たり、視界を妨げるような積み方はしないでください。**
- **柔らかい地面、でこぼこのある地面を通過するときは速度を下げてください。**
- **15度以上の傾斜地では本機を使用しないでください。**

取扱いのポイント

ロープフック以外にはロープをかけないでください。

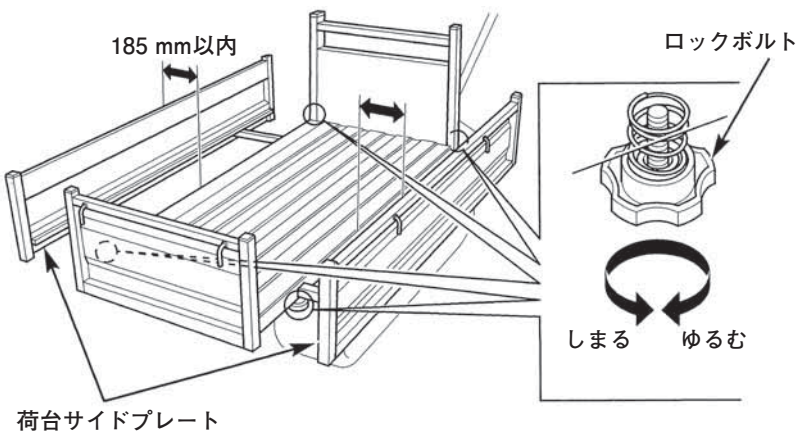
荷台サイドプレートの使いかた

荷台サイドプレートは左右185 mmずつ広げることができますが通常の場合は標準の位置で使用してください。

●荷物にロープをかけるときは荷物を荷台サイドプレートに軽く当たるようにセットしてください。

荷台サイドプレートの取扱い

左右のロックボルト4本をゆるめ荷台サイドプレートを横方向に積載物に合わせて、左右均等（185 mm以内）に引き出してください。
引き出し後、確実にロックボルトを締め付けてください。



⚠警告

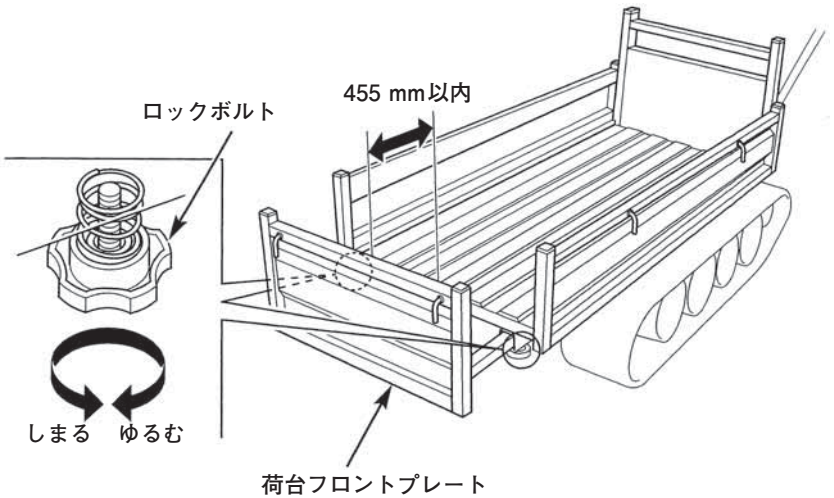
●急傾斜地では荷台サイドプレートを広げて使用しないでください。荷台サイドプレートを広げるのは、軽量物を運搬するときだけにしてください。

●荷台サイドプレートを広げるときは、左右同じ長さに出して、荷物は左右均等に積載してください。限度以上に荷台サイドプレートを広げないでください。荷台サイドプレートが外れ荷くずれを起こし、けがをするおそれがあります。

荷台フロントプレートの取扱い

ロックボルト2本をゆるめ積載物の長さに合わせて引き出してください（455 mm以内）。

引き出し後、確実にロックボルトを締付けてください。



⚠警告

急傾斜地では荷台フロントプレートを引き出して使用しないでください。

荷台フロントプレートを引き出して使用する場合は、軽量物を運搬するときだけにしてください。

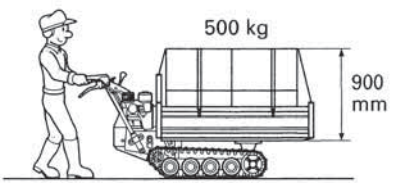
また、荷台フロントプレートを限度以上に引き出さないでください。

荷台フロントプレートが外れて荷くずれを起こしけがをするおそれがあります。

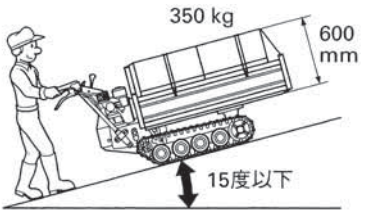
積載のしかた

この運搬機は平地または15度以下の傾斜地で使用してください。

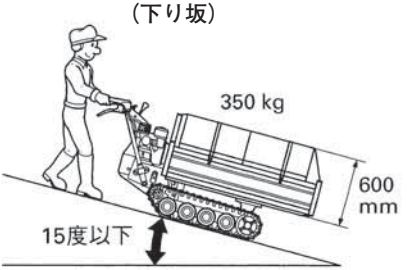
平地



傾斜地15度以下
（登り坂）

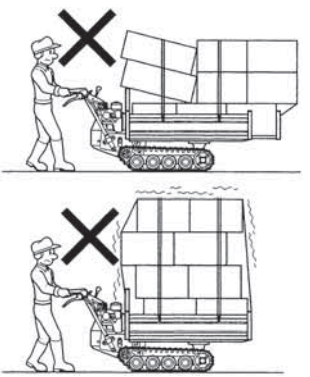


傾斜地15度以下
（下り坂）



⚠注意

- 荷台からはみ出すような荷物の積載はしないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したりして運転操作に支障をきたします。
- 荷物は高く積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなります。
  転倒などしやすくなりけがをするおそれがあります。



傾斜地での使いかた

走行について

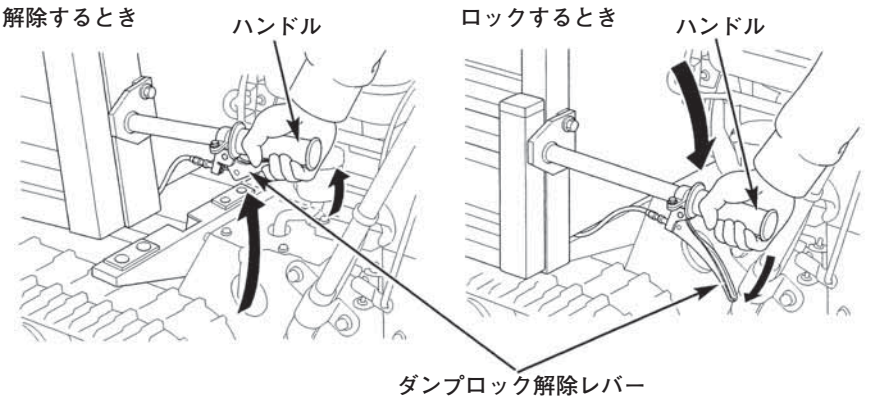
1. 必ず " **低速** " で走行してください。
2. 足場が悪い場合は、車速を下げて足元に十分注意して作業を行ってください。
3. 降坂時はエンジン回転調節レバーを " **低速** " にして、エンジンブレーキを使用してください。
4. 傾斜地での発進、停止は転倒に十分注意してください。
5. 急傾斜地での旋回および変速は行なわないでください。

積載について

1. 傾斜地では荷物の安定性が悪くなりますので、ロープなどでしっかり固定してください。
2. 路面の状態により本機の安定性が悪くなりますので、荷物の量は控え目にしてください。
3. 傾斜地では前方の視界が悪くなりますので、荷物の高さは控え目にしてください。

ダンプロック解除レバーの使いかた

解除するとき …… レバーを握りハンドルを持ち上げます。
ロックするとき …… ハンドルのみ持ってロックするまで下げます。



⚠警告

本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。荷物を落としたり、けがをするおそれがあります。

定期点検整備項目

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

点検整備項目 ＼ 点検時期（注1）		作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検、補給	○					21
	交換		○		○		41
エアクリーナ	点検	○					23
	清掃			○（注2）			44
HST（変速機）オイル	点検	○					24
ミッションオイル	点検					○	53
本機まわりの点検		○					16
レバー類の作動	点検	○					16
各部の締付け	点検	○					16
配線、ケーブル類の点検		○					16
エンジンの始動、停止	点検	○					16
点火プラグ	点検、調整				○		43
	交換					○	
エンジン回転調節ケーブル	調整					○（注3）	−
走行クラッチケーブル	調整		○		○		47
サイドクラッチケーブル	調整		○		○		51
ブレーキケーブル	調整		○		○		49
ダンプロックケーブル	調整				○		52
クローラ	点検	○			○		19
	調整		○			○	45
ブレーキシュー	点検				○		50
	交換					○（注3）	−
各部グリス塗布						○	54
アイドルスピード	点検、調整					○（注3）	−
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○（注3）	−
燃焼室	清掃	250時間運転毎（注3）（注4）					−
燃料タンク、フィルタ	清掃					○（注3）	−
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（注3）					−

（注1）点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

（注2）ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

（注3）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店又はサービス店で実施していただく項目です。

（注4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

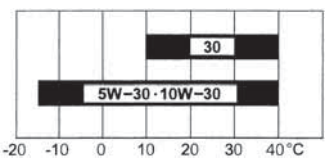
点検・整備は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジンスイッチを"停止"位置にして点火プラグキャップをプラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出す場合があります。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》　Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30エンジンオイルをご使用ください。

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



外気温

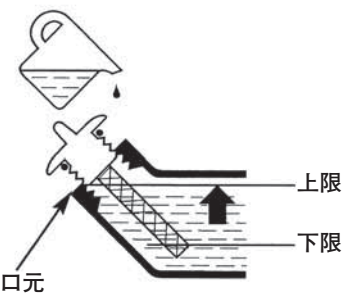
《規定量》 0.58L

交換のしかた

1. エンジンオイル給油キャップを外し（21頁参照）、オイル排油ボルトをゆるめてください。
   オイル受けをセットしてからオイルファンネルを次頁図のようにセットしてください。

2. 排油ボルトを外しオイルを抜いてください。
3. 排油ボルトのドレンパッキンを新しい部品と交換してください。
   再使用するとオイル漏れの原因になります。
   オイルが抜けたら排油ボルトを確実に締付けてください。
4. 新しいエンジンオイルを給油口の口元まで注入してください。
5. 注入後、給油キャップを確実に締付けてください。





⚠注意

エンジン停止直後はオイルの油温、エンジン、マフラなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **必ず本機を水平にし、オイルを給油してください。**
- **交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。**
  不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

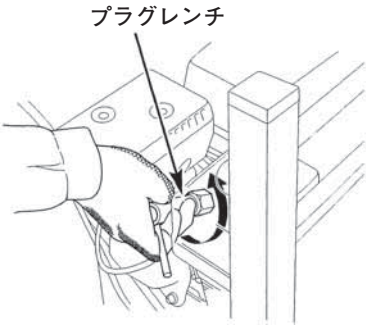
点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

エンジン停止直後は点火プラグ、エンジン、マフラなどが熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

清掃のしかた

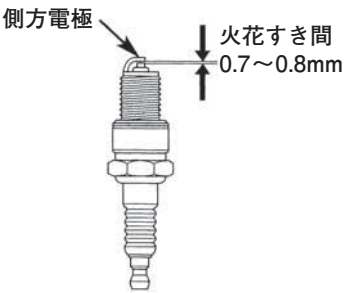


1. 点火プラグキャップを取外します。
2. プラグレンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

●プラグクリーナが無いときはワイヤブラシで汚れを落としてください。

調整

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7～0.8mm



標準プラグ

BP6ES（NGK）、W20EP-U（DENSO）

取扱いのポイント

- **故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。**
- **点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付けてください。**
- **点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。**

エアクリーナの清掃

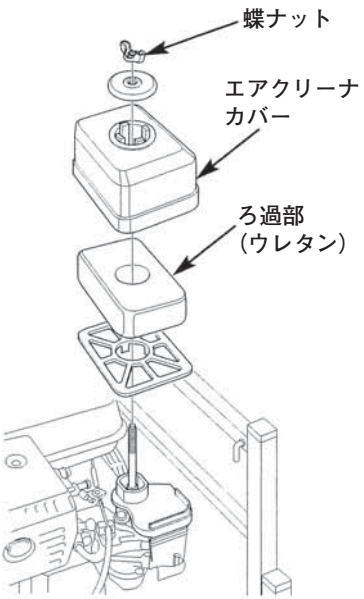
エアクリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に点検しましょう。

⚠警告

エアクリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

清掃のしかた

1. 蝶ナットを外し、エアクリーナカバーを取外します。
2. ウレタンろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。次にオイルに浸した後固く絞ってください。
3. 清掃後、各部品を組付け、蝶ナットを確実に締付けてください。
   エアクリーナカバーの接続部にすき間、ズレがないことを確認してください。



取扱いのポイント

- **エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナカバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付け方が悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響をあたえます。**

クローラの調整

⚠警告

点検・調整は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジンスイッチを＂停止＂位置にして点火プラグキャップを点火プラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出しクローラに巻き込まれけがをするおそれがあります。

クローラに損傷はないか、ゆるんでいないことを確認してください。(点検方法は19頁参照)
クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

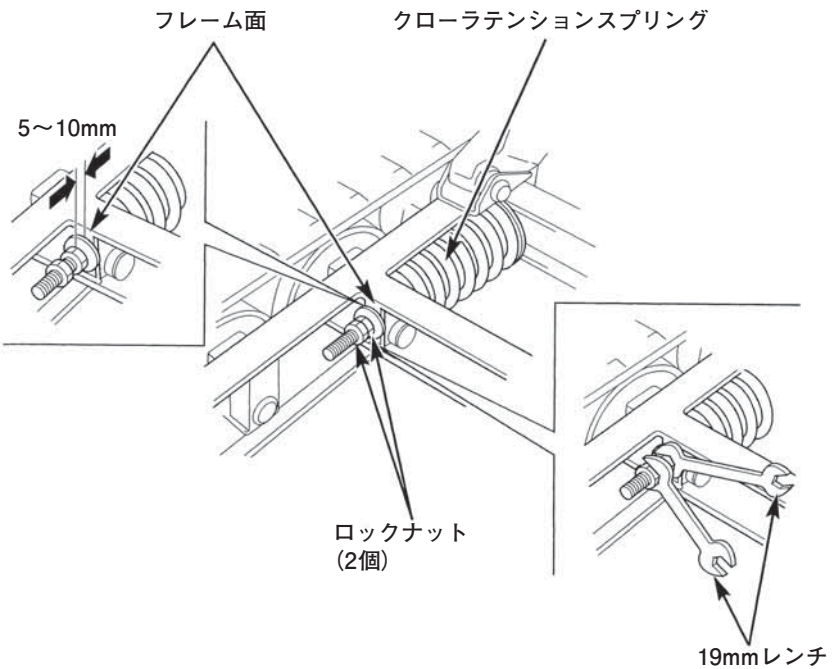
調整のしかた

⚠警告

持ち上げた荷台が落ちてきますので、荷台が落ちないように必ず木片などで確実に固定するか、または本機から荷台を外して行ってください。
荷台に体が挟まれ、大けがをするおそれがあります。

1. 荷台を持ち上げてください。
2. 持ち上げた荷台が落ちないように木片などを必ず入れてささえてください。
3. 外側のロックナットをゆるめ、次に内側のロックナットをフレーム面とすき間ができるまでゆるめてください。

4. 内側のロックナットとフレーム面の寸法が下記寸法になるようにロックナットを調整してください。
   規定寸法：5〜10 mm
5. もう１個のロックナットで確実に締付けてください。締付けは19mmレンチ2本を使用してください。



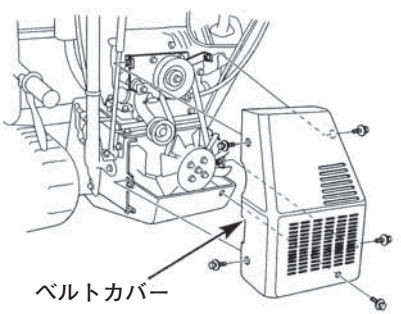
走行クラッチケーブルの調整

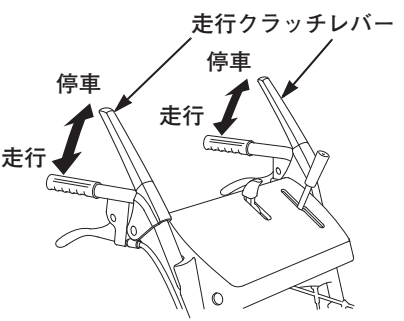
走行クラッチケーブルの調整が完全でないと、クラッチがすべり走行できません。

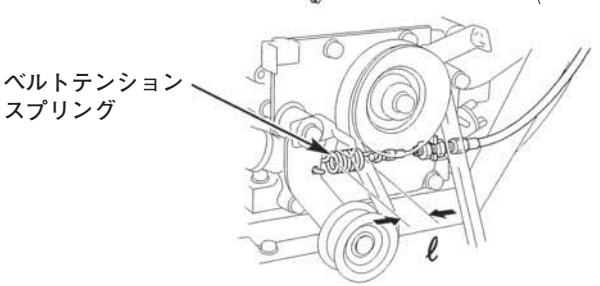
点検のしかた

1. ベルトカバーを取外します。
2. 走行クラッチレバーを**"停車"**の位置にします。
3. ベルトテンションスプリングの長さ（下の図のℓ寸法）を測定します。
4. 走行クラッチレバーを**"走行"**の位置にして、もう一度ベルトテンションスプリングの長さ（下の図のℓ寸法）を測定します。
5. 手順3.と4.で測定したベルトテンションスプリングの長さの差が下記寸法になっているか確認してください。

   規定寸法：5～7mm



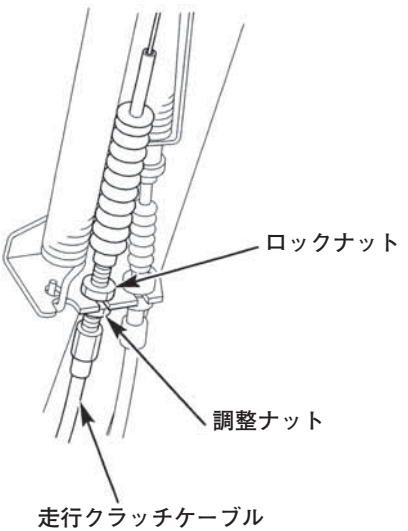




調整のしかた

ベルトテンションスプリングの長さの差が5 mm以下の場合は次の手順で調整します。

1. 走行クラッチレバーを**"停車"**の位置にして、走行クラッチケーブルのロックナットをゆるめます。
2. 調整ナットを回してベルトテンシションスプリングの長さの差が7 mmになるように調整します。
3. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。
4. ベルトカバーを取付けます。

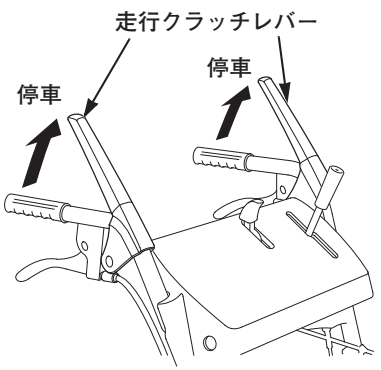


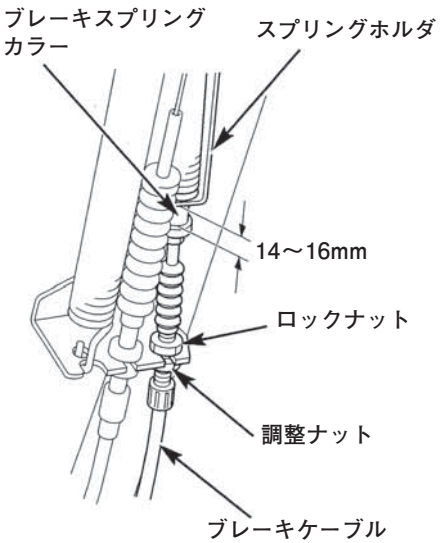
ブレーキケーブルの調整

ブレーキケーブルの調整が完全でないと、ブレーキの効きが悪くなります。

調整のしかた

1. 走行クラッチレバーを放した状態（**" 停車 "** ……ブレーキが効いている状態）でブレーキスプリングカラーがスプリングホルダから下記寸法になっているか確認してください。
   規定寸法：14～16 mm
2. 調整は、走行クラッチレバーを放した状態でロックナットをゆるめて、調整ナットでブレーキケーブルを動かして規定寸法になるようにしてください。
3. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。

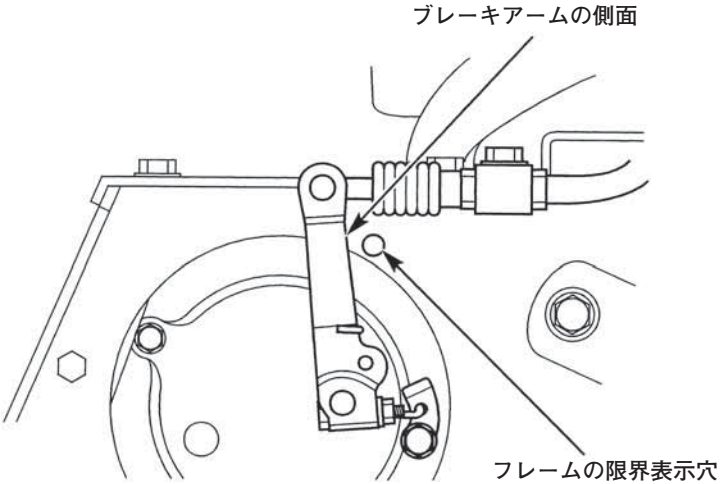




ブレーキシューの点検

ブレーキケーブルの調整後、必ずブレーキシューの点検を行ってください。

走行クラッチレバーを放し"**停車**"の位置にしたとき、ブレーキアームの側面がフレームの限界表示穴にかかっていないことを確認します。アームの側面が限界表示穴にかかっているときはお買いあげ販売店でブレーキシューの交換を行ってください。



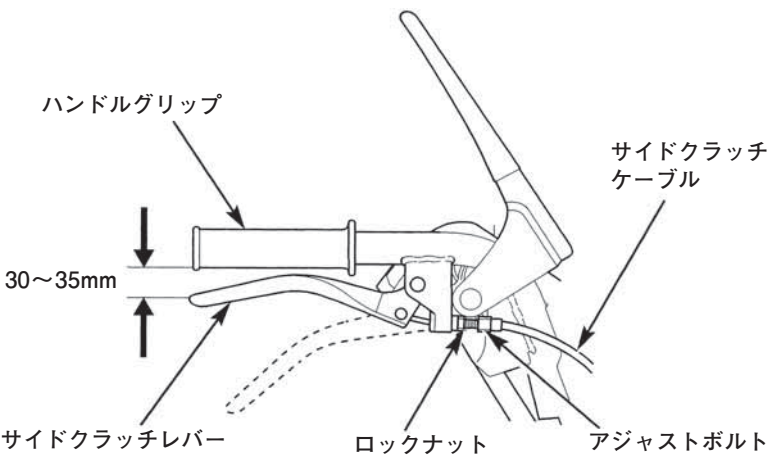
サイドクラッチケーブルの調整

サイドクラッチケーブルの調整が完全でないとサイドクラッチの切れが悪くなります。

調整のしかた

1. 本機を前後にゆすりながら、レバーが深く握れるところを探してください。
2. サイドクラッチレバーを握った状態でレバーの先端とハンドルグリップとのすき間が下記寸法になっているか確認してください。
   規定寸法：30～35mm
3. 調整は、レバーを握った状態でロックナットをゆるめアジャストボルトで規定の寸法にしてください。
4. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。

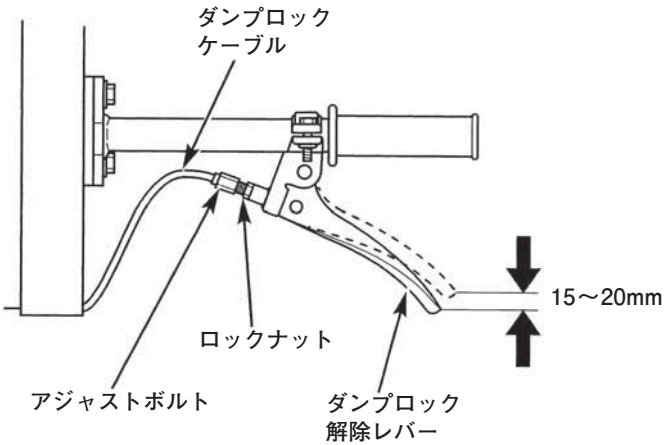
サイドクラッチケーブルの調整は左、右同様に行ってください。



ダンプロックケーブルの調整

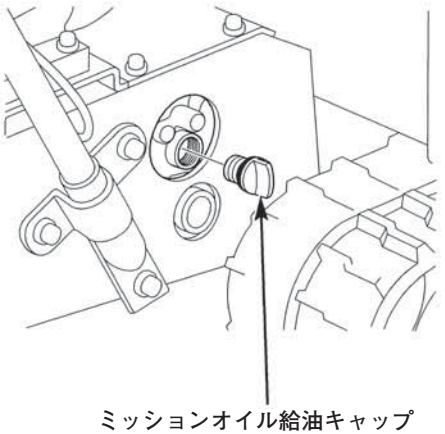
調整のしかた

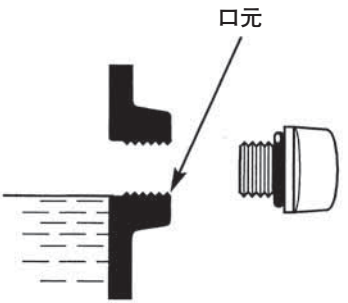
1. 荷台をロックした状態でダンプロック解除レバーの先端の遊びが下記寸法になっているか確認してください。
   遊び：15～20mm
2. 調整は、ロックナットをゆるめアジャストボルトで規定の寸法になるようにしてください。
3. 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。



ミッションオイルの点検

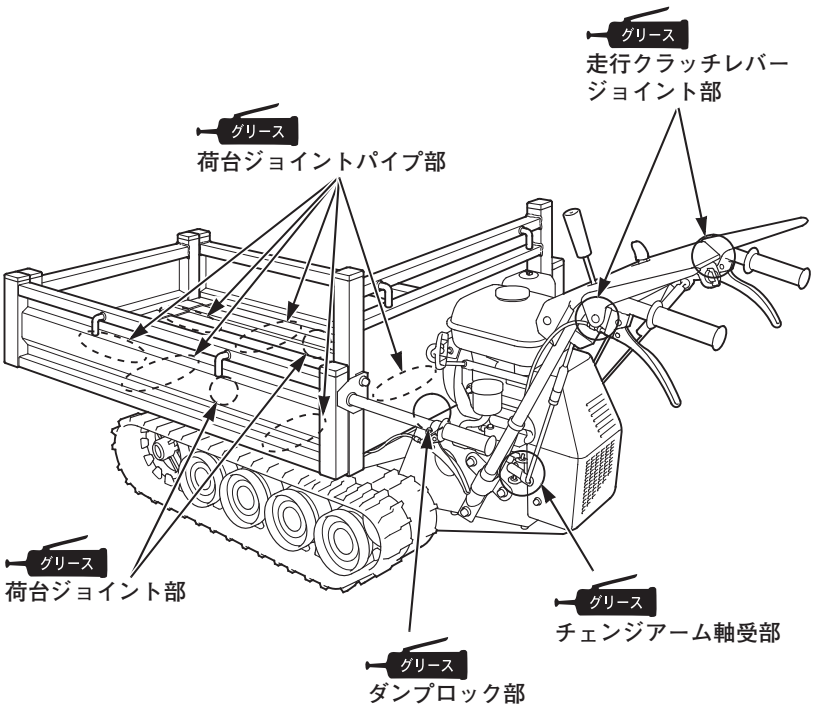
エンジンを水平にし、ミッションオイル給油キャップを外して口元までオイルがあることを確認してください。もし口元までオイルがない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。





各部の給油について

本機を常に快適に使用するため、下記個所に給油してください。

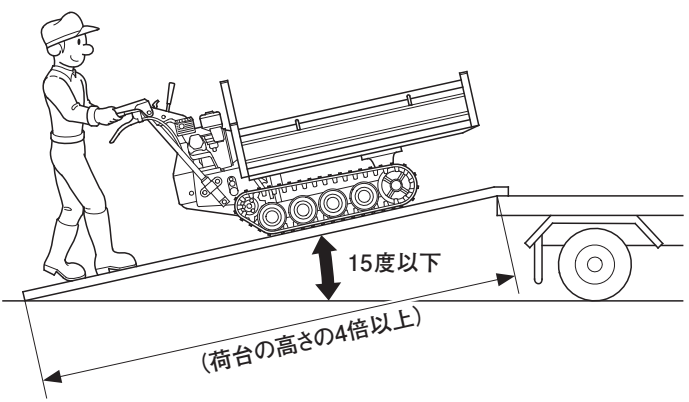


トラック（車）への積み降ろしのしかた

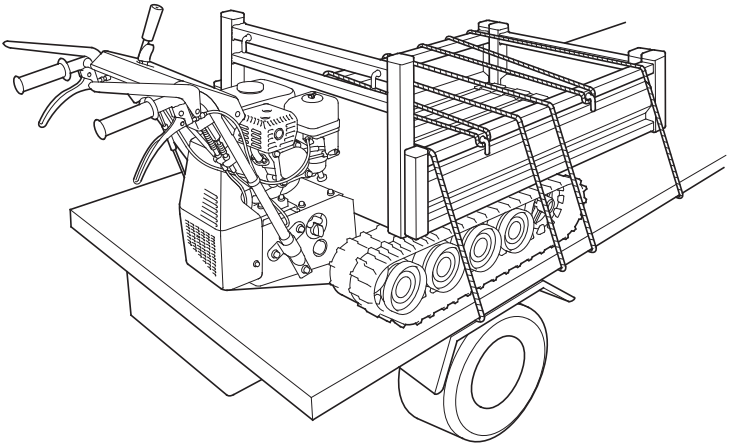
⚠警告

トラックへの積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下によりけがをするおそれがあります。

1. 本機の寸法および重量の積載を満たすトラックを使用してください。
2. トラックへの積み降ろしは平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行ってください。
3. アユミ板は耐荷重が0.5 t以上で、本機の傾斜角度が15度以下になる長さで、幅30 cm以上のもので、滑り止めや外れ防止フックのついた丈夫なアユミ板を使用してください。（目安としてトラックの荷台の高さの4倍以上）



4. アユミ板はトラックに対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5. トラックにアユミ板を平行に並べ、本機のクローラと一直線であることを確認してください。
6. 本機に荷物のない状態で、必ず低速で行なってください。
   トラックに積載したら、走行クラッチレバーを放し"**停止**"位置にし、エンジンを止め、燃料コックレバーを"**止**"位置に合わせ、本機をロープなどで2カ所以上固定してください。



7. トラックから本機を降ろすときは、低速で行ってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

長期間使用しないときの手入れ

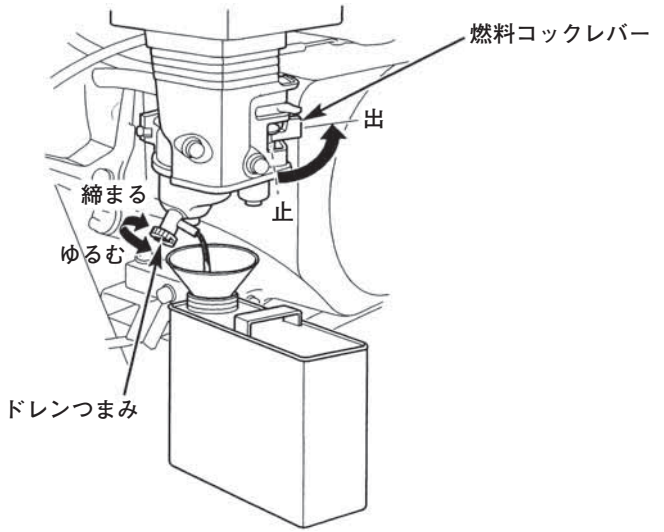
長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを必ず行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜きます。ガソリンは自然劣化しますので必ず抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠警告
平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジンスイッチを " 停止 " 位置にして点火プラグキャップをプラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出します。

⚠注意
エンジン停止直後はエンジン、マフラーなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

1. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜いてください。
－1. 燃料給油キャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内のガソリンを専用容器に移してください。電動式のポンプは使用しないでください。
－2. 燃料コックレバーを **" 出 "** の位置にして、ドレンつまみをゆるめて、燃料を適切な容器に受けてください。
－3. 完全に燃料が抜けたら、ドレンつまみを確実に締めて燃料コックレバーを **" 止 "** の位置にしてください。

⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。**



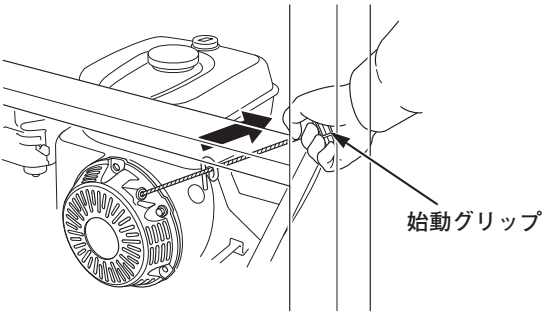
抜き取ったガソリンは、お買い求めになったガソリンスタンドに処理を依頼してください。

2. エアクリーナを清掃してください。(44頁参照)
3. 本機の清掃を行い、各部の締付けを確認してください。また各部の給油を実施してください。(54頁参照)

取扱いのポイント

- **本機を洗うときはエアクリーナのカバー締付け部付近、電装部品、およびキャブレータに水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水がかかると内部に水が侵入し故障の原因になります。**
- **次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。**

4. 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



⚠警告

本機を格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディカバーなどをかけて格納してください。
エンジンやマフラが熱いときに燃えやすいものが触れると、火災の原因になります。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（25～28頁）
2. 燃料はありますか？（17、18頁）
3. エンジンオイルは規定量はありますか？（21頁）
4. プラグキャップは確実に取り付けられていますか？（43頁）
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（43頁参照）
   ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確かめましょう

主　　要　　諸　　元

名　　称		HP500H
型　　式		NZAA
タ　イ　プ		CJ1P
全　　長		2,030 mm
全　　幅		615 mm
全　　高		1,100 mm
乾燥質量［重量］		192 kg
全装備質量［重量］		195 kg
エンジン	名　　称	GX160
	形　　式	強制空冷、単気筒、4ストローク、OHV
	排　気　量	163 cm^3
	エンジン最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	3.6 kW（4.9 PS）/3,600 rpm
	アイドリング回転数	2,000 ± 100 rpm
	無負荷最高回転数	3,600 rpm
	内径×行程	φ68.0 × 45.0 mm
	点火方式	トランジスタ式、マグネト
	エンジン　オイル容量	0.58 L
	燃料タンク容量	3.1 L
	点火プラグ	BP6ES（NGK）、W20EP-U（DENSO）
変速段数		無段変速（HST）
車速	前　進	0～4.3 km/h
	後　進	0～3.6 km/h
最大積載量	平　地	500 kg
	傾斜地	350 kg
荷台寸法（長さ×幅×深さ）		1,110 × 520（標準位置）× 180 mm
ミッションオイル容量		2.3 L
HSTオイル容量		0.6 L
クローラ（幅×長さ）		180 × 2,220 mm（60P × 37L）
荷台タイプ		ボックス

＊：ここに表示したエンジン出力はSAE Jl349に準拠して、3,600 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。
量産エンジンの出力は、この数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数及び使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

諸元は予告なく変更することがあります。

メモ

メモ

メモ

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Hondaの販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－1120（イイフレアイオ）10

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

〒361-0188　埼玉県和光市本町8－1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams

K2

Ⓢ Ⓝ100.2012.06

30776620

00X30-776-6200

©2012 本田技研工業株式会社